

3 経営成績（損益計算書）について

(1) 経営成績の概括

損益計算書に示される経営成績は、次表のとおりである。

(単位:千円・%・ポイント)

区 分	令和5年度		令和4年度		増 減	
	金額/比率	構成比	金額/比率	構成比	金額/比率	増 減 率
総収益	7,493,334	100	7,410,764	100	82,570	1.1
総費用	6,732,323	100	6,702,806	100	29,517	0.4
(経常損益)						
経常収益	7,479,146	99.8	7,395,356	99.8	83,790	1.1
営業収益	4,708,686	62.8	4,695,282	63.4	13,404	0.3
営業外収益	2,770,460	37.0	2,700,074	36.4	70,386	2.6
経常費用	6,695,702	99.5	6,697,524	99.9	△ 1,822	△ 0.0
営業費用	5,897,044	87.6	5,914,109	88.2	△ 17,065	△ 0.3
営業外費用	798,658	11.9	783,415	11.7	15,243	1.9
(特別損益)						
特別利益	14,188	0.2	15,408	0.2	△ 1,220	△ 7.9
特別損失	36,621	0.5	5,282	0.1	31,339	593.3
当年度純利益	761,011	—	707,958	—	53,053	7.5
前年度繰越利益剰余金	16,649	—	8,691	—	7,958	91.6
その他未処分利益剰余金 変動額	700,000	—	760,000	—	△ 60,000	△ 7.9
当年度未処分利益剰余金	1,477,660	—	1,476,649	—	1,011	0.1
経常収支比率	111.7	—	110.4	—	1.3	—
営業収支比率	79.8	—	79.4	—	0.4	—

(備考) 前年度繰越利益剰余金及び当年度未処分利益剰余金の増減率は、前年度の当年度未処分利益剰余金のうち、どの程度を積立金に積み立てるかにより変動する数値であるため、参考として表示している。

総収益については、営業収益が 1,340 万 4 千円増加し（主な理由：下水道使用料が 3,259 万 3 千円増加、国県市補助金が 1,659 万円減少）、営業外収益が 7,038 万 6 千円増加し（主な理由：他会計補助金が 5,021 万 3 千円増加、長期前受金戻入が 2,137 万 1 千円増加）、特別利益が 122 万円減少（主な理由：過年度損益修正益が 335 万 5 千円減少、貸倒引当金戻入益が 189 万 4 千円増加）した。全体では 1.1%増加している。

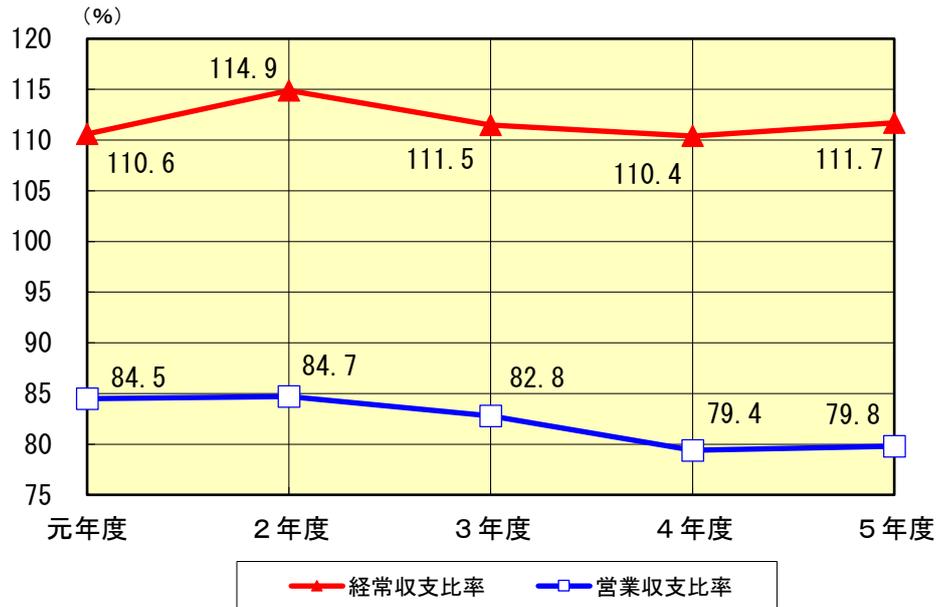
総費用については、特別損失が 3,133 万 9 千円増加した（主な理由：減損損失及び災害による損失の皆増）ことなどにより、全体では 0.4%の増加となった。

このように、総収益、総費用ともに増加したが、総費用より総収益の増加額が上回ったことにより当年度純利益は前年度より 7.5%増加し、7 億 6,101 万 1 千円となっている。

経常収支比率については、健全経営の水準とされる 100%を超えており、前年度より 1.3 ポイント上昇し、111.7%となっている。

また、営業収支比率については、営業収益は増加し、営業費用は減少しているため、前年度より 0.4 ポイント上昇し、79.8%となっている。

経常収支比率及び営業収支比率の推移



(2) 経常収益及び経常費用

ア 営業収益及び営業費用

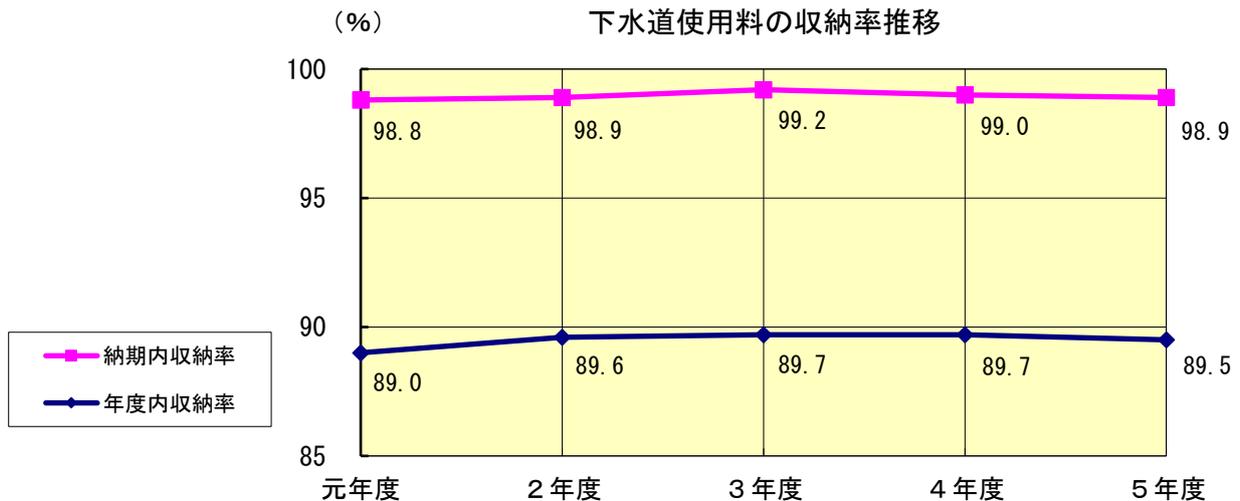
① 営業収益の増減

営業収益の総収益に対する割合は 62.8% で、比率では前年度より 0.6 ポイント低下しているが、決算額では 1,340 万 4 千円 (0.3%) 増加している。

下水道収益 (下水道使用料) については、総収益に対する割合は 57.2% で、比率では前年度より 0.3 ポイント低下しているが、決算額では 3,259 万 3 千円 (0.8%) 増加している。

下水道使用料の収納状況 (記載金額は消費税及び地方消費税を含む。) は、次表のとおりである。

下水道使用料の収納率推移



現年度分

(単位:千円・%・ポイント)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
調定額 A	4,594,914	4,653,883	4,684,245	4,682,555	4,718,407
収入額 B	4,089,653	4,168,455	4,200,512	4,200,638	4,221,195
未収額 A-B	505,261	485,428	483,733	481,917	497,212
年度内収納率 B/A	89.0	89.6	89.7	89.7	89.5
対前年度比較増減	△ 0.1	0.6	0.1	0.0	△ 0.2
納期内収納額 C	4,540,921	4,602,519	4,644,443	4,636,764	4,668,417
納期内収納率 C/A	98.8	98.9	99.2	99.0	98.9
対前年度比較増減	0.1	0.1	0.3	△ 0.2	△ 0.1

(備考)

- 1 未収額には、納期未到来分を含む。
- 2 年度内収納率は、当年度内の調定額に対する、当年度内の収納額の割合である。
- 3 対前年度比較増減は、年度未収納率(%)又は納期内収納率(%)の対前年度差(ポイント)である。
- 4 納期内収納率は、当年度内の調定額に対する、最終納期(通常は翌年度4月末日)内の収納額(納期内収納額)の割合である。

納期内収納率は、本年度は、前年度より 0.1 ポイント低下し、98.9%である。本年度の納期内収納額を納付方法別にみると、口座振替の割合が 79.9% (収納率 99.6%)、口座振替以外の割合が 20.1% (収納率 97.2%) となっている。

過年度分

(単位:千円・%・ポイント)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
調定額 a	520,366	530,298	509,316	513,727	517,359
収入額 b	491,597	500,795	478,738	472,049	471,384
不納欠損額 c	2,747	2,388	2,482	3,680	2,552
未収額 a-b-c	26,022	27,115	28,096	37,998	43,423
収納率 b/a	94.5	94.4	94.0	91.9	91.1
対前年度比較増減	0.1	△ 0.1	△ 0.4	△ 2.1	△ 0.8

(備考)

- 1 調定額は、前年度から繰り越される「未収下水道使用料」の年度当初額から次の額を引いた額である。
 - ①漏水による減免などにより調定を減じた額
 - ②前年度中に水道事業会計で一括徴収された下水道使用料のうち、前年度内に下水道事業会計への振替が済んでいないものの額
- 2 対前年度比較増減は、収納率(%)の対前年度差(ポイント)である。

② 営業費用の増減

総費用に対する割合は 87.6%で、比率では前年度より 0.6 ポイント低下し、決算額で 1,706 万 5 千円 (0.3%) 減少している。項目別では、次のとおりである。

(7) 管渠費 (決算額 3 億 525 万 3 千円)

管渠費は、管路の維持管理に要する費用である。総費用に対する割合は 4.5%で、比率で

は前年度より 1.4 ポイント低下し、決算額で 9,292 万 2 千円 (23.3%) 減少している。主な要因は、委託料及び修繕費の減少である。

(イ) **ポンプ場費 (決算額 1 億 6,621 万 5 千円)**

ポンプ場費は、ポンプ場施設の維持管理及び処理作業に要する費用である。総費用に対する割合は 2.5% で、比率では前年度より 0.3 ポイント上昇し、決算額では 1,781 万 4 千円 (12.0%) 増加している。主な要因は、修繕費の増加である。

(ウ) **処理場費 (決算額 11 億 778 万 6 千円)**

処理場費は、処理場の維持管理及び処理作業に要する費用である。総費用に対する割合は 16.5% で、比率では前年度より 0.5 ポイント上昇し、決算額では 3,348 万 5 千円 (3.1%) 増加している。主な要因は、南部浄化センターの汚泥処理施設耐震診断の実施や汚泥処理業務委託の処理単価の上昇に伴う委託料の増加である。

(エ) **雨水施設費 (決算額 7,435 万 8 千円)**

雨水施設費は、雨水施設の維持管理及び処理作業に要する費用である。総費用に対する割合は 1.1% で、比率では前年度より 0.7 ポイント低下し、決算額は 4,947 万 3 千円 (40.0%) 減少している。主な要因は、委託料の減少である。

(オ) **業務費 (決算額 1 億 724 万 4 千円)**

業務費は、下水道使用料調定などのための費用である。総費用に対する割合は 1.6% で、比率では前年度より 0.1 ポイント低下し、決算額は 390 万 3 千円 (3.5%) 減少している。主な要因は、委託料の減少である。

(カ) **総係費 (決算額 1 億 3,131 万 9 千円)**

総係費は、事業運営のための間接経費である。総費用に対する割合は 2.0% で、比率では前年度より 0.4 ポイント上昇し、決算額では 2,637 万円 (25.1%) 増加している。主な要因は、退職給付費の増加である。

(キ) **減価償却費 (決算額 39 億 8,152 万 9 千円)**

減価償却費は、固定資産の取得価額を耐用年数にわたって期間配分した費用である。総費用に対する割合は 59.1% で、比率では前年度より 0.4 ポイント上昇し、決算額では 4,857 万 8 千円 (1.2%) 増加している。主な要因は、処理場施設の改築や管渠布設工事の完成に伴う減価償却費の増加である。

(ク) **資産減耗費 (決算額 2,334 万円)**

資産減耗費は、資産の滅失・紛失・価値の下落を反映させる費用である。総費用に対する割合は 0.3% で、比率は前年度と変わらず、決算額では 298 万 6 千円 (14.7%) 増加している。主な要因は、本年度は下水道管路布設工事に伴う既設管の一部除却があったためである。

イ 営業外収益及び営業外費用

① 営業外収益の増減

営業外収益の総収益に対する割合は 37.0%で、比率では前年度より 0.6 ポイント上昇し、決算額では 7,038 万 6 千円 (2.6%) 増加している。主な要因は、一般会計繰入金である他会計補助金繰入額及び長期前受金戻入が増加したことである。

② 営業外費用の増減

営業外費用の総費用に対する割合は 11.9%で、比率では前年度より 0.2 ポイント上昇し、決算額では 1,524 万 3 千円 (1.9%) 増加している。主な要因は、企業債利息の増加である。

(3) 特別利益及び特別損失

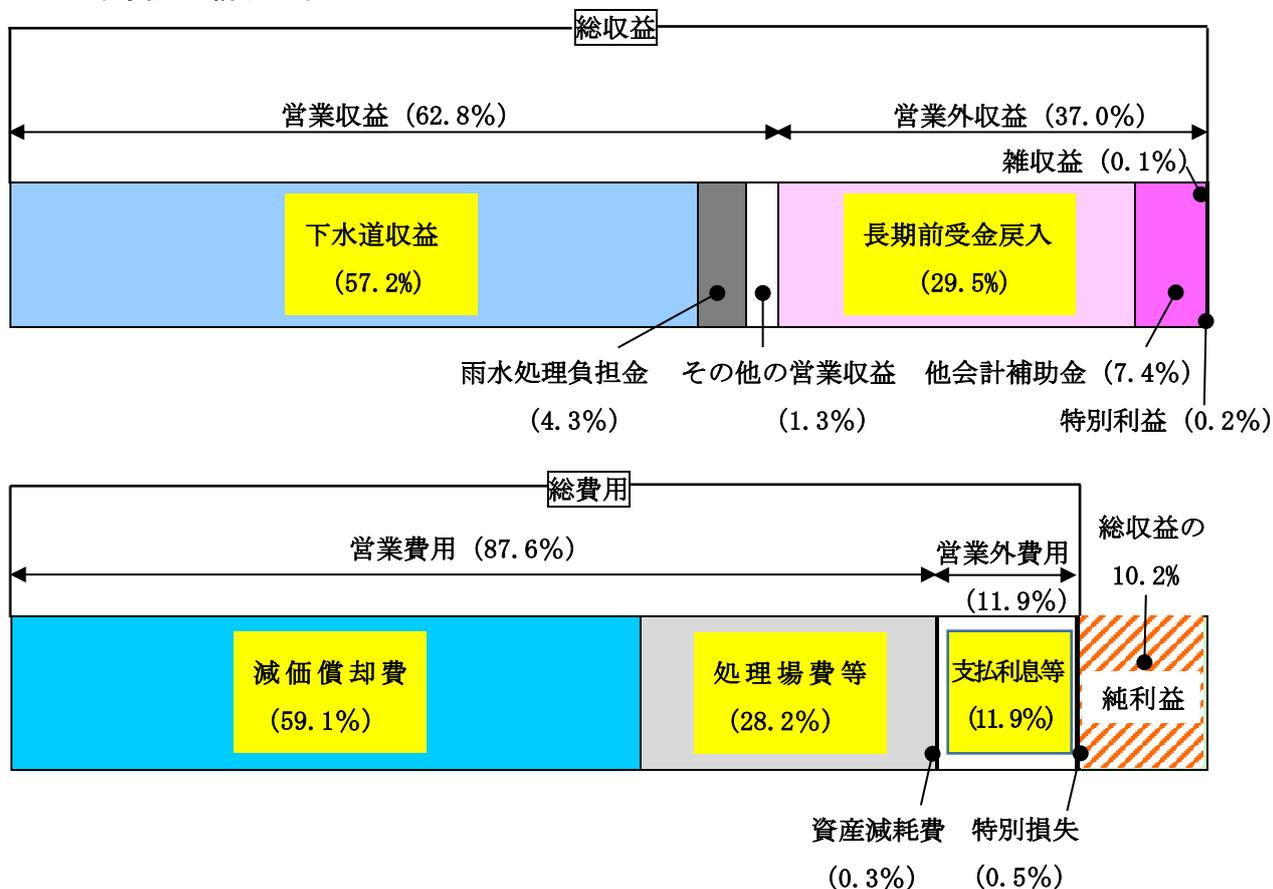
ア 特別利益の増減

特別利益の総収益に対する割合は 0.2%で、比率は前年度と変わらず、決算額では、122 万円 (7.9%) 減少している。主な要因は、過年度損益修正益の減少である。

イ 特別損失の増減

特別損失の総費用に対する割合は 0.5%で、比率では前年度より 0.4 ポイント上昇し、決算額では 3,133 万 9 千円 (593.3%) 増加している。主な要因は、減損損失及び災害による損失の皆増である。

総収益・総費用の構成比率



(4) 使用料単価・汚水処理原価

有収水量 1 m³当たりの使用料単価及び汚水処理原価は、次表のとおりである。

(単位:円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
使用料単価 A	179.1	176.4	177.1	177.8	178.2
汚水処理原価 B	180.0	176.2	184.2	187.5	184.7
維持管理費	75.2	69.1	71.2	73.5	72.6
資本費	104.8	107.1	113.0	114.0	112.1
利 益 A-B	△ 0.9	0.2	△ 7.1	△ 9.7	△ 6.5

(備考)

- 1 使用料単価 = 下水道使用料 / 年間有収水量
- 2 汚水処理原価 = (汚水処理に係る維持管理費 / 年間有収水量) + (汚水処理に係る資本費 / 年間有収水量)
- 3 利 益 = 使用料単価 - 汚水処理原価
- 4 上記表中、令和5年度の数値は、令和6年7月22日現在の暫定の数値である。

使用料単価は、有収水量 1 m³当たりの使用料収入であり、使用料の水準を示す。本年度の使用料単価は 178.2 円で、前年度と比べて 0.4 円上昇した。

汚水処理原価は、有収水量 1 m³当たりの汚水処理費を示すものである。汚水処理原価のうち、維持管理費は、管渠費、ポンプ場費、処理場費及びその他維持管理費で構成されており、資本費は、減価償却費及び支払利息等で構成されている。

汚水処理原価は 184.7 円で、前年度と比べて 2.8 円低下した。主な要因は、資本費が低下したことである。

利益は、1 m³当たりの利益額を示す。本年度は、使用料単価は上昇し、汚水処理原価は低下したため、結果として、利益は 1 m³当たり△6.5 円となり、前年度に比べて 3.2 円上昇している。令和3年度以降、3年連続で利益がマイナスとなっており、汚水処理に係る費用を使用料で賄っていない状況が続いている。

(5) 一般会計繰入金

一般会計繰入金は、公営企業の運営のために一般会計から企業会計に繰り入れられる収入である。総務省から毎年度通知される経費負担区分（雨水処理に要する経費及び分流式下水道等に要する経費など）のルールを基本として計算された金額が「基準内繰入金」である。総務省からの通知にはないが、本市と企業局との取り決めにより、本来、一般会計が負担すべき経費に対して繰り入れる金額が「基準外繰入金」である。繰入金の内訳は、次表のとおりである。

一般会計からの繰入金一覧表

(単位:千円・%)

項 目	令和5年度	構成比	繰入基準
収益的収入	880,119	56.2	
営業収益	323,685	20.7	
雨水処理負担金	323,685	20.7	
雨水処理に要する経費	323,685	20.7	基準内
営業外収益	556,434	35.5	
他会計補助金	556,434	35.5	
下水道に排除される下水の規制に関する事務に要する経費	23,200	1.5	基準内
水洗便所に係る改造命令等に関する事務に要する経費	5,344	0.3	基準内
不明水の処理に要する経費	32,589	2.1	基準内
公営企業災害復旧債の償還に要する経費	2	0.0	基準内
下水道事業債(特例措置分)の償還に要する経費	104	0.0	基準内
緊急下水道整備特定事業等に要する経費	12,776	0.8	基準内
分流式下水道等に要する経費	446,496	28.5	基準内
下水道事業債(特別措置分)の償還に要する経費	6,629	0.4	基準内
下水道使用料減免に要する経費	29,294	1.9	基準外
資本的収入	686,881	43.8	
負担金	686,881	43.8	
他会計負担金	686,881	43.8	
下水道事業債(特別措置分)の償還に要する経費	514,804	32.8	基準内
緊急下水道整備特定事業等に要する経費	156,647	10.0	基準内
公営企業災害復旧債の償還に要する経費	12,224	0.8	基準内
下水道事業債(特例措置分)の償還に要する経費	3,206	0.2	基準内
合 計	1,567,000	100	